SAGA UNIVERSITY Magazine

佐賀大学広報誌 かちがらす

特集
『佐賀大学の物語』刊行

教育紹介

研究紹介

イキイキ佐大生

留学生と日本人学生の懸け橋に「グローバルリーダーズ」
「サードプレイス」で街を元気に「亀山ゼミナール」
佐賀大学オリジナル清酒「悠々知酔」製造

地(知)の拠点整備事業

トピックス
「YOUNG JAPAN ACTION」大賞受賞!
「佐賀市景観賞」受賞!

サークル紹介

お知らせ

第33号　2015

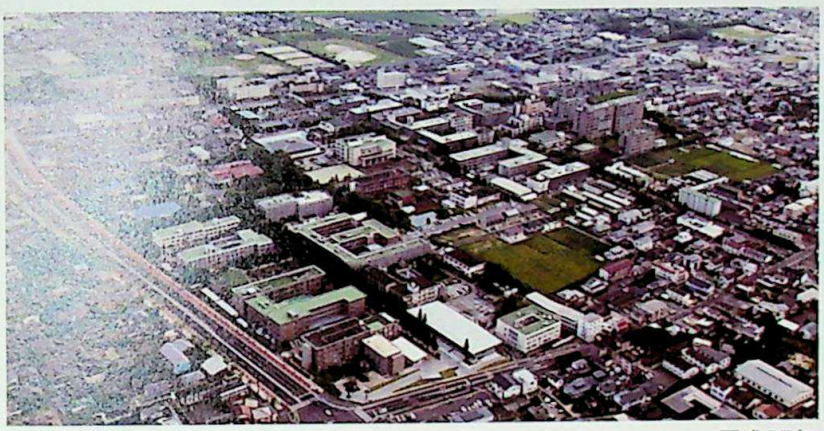
特集

統合10周年記念誌

『佐賀大学の物語』刊行

昭和40年代

本庄キャンパス



平成25年

平成26年9月に統合10周年記念誌『佐賀大学の物語』が刊行されました。学内外で注目されている記念誌です。今回は、編集委員長を務められた文化教育学部の上野景三教授に編集の経緯や内容についてお尋ねしてみたいと思います。

○どうして刊行することになったのでしょうか。

現在の佐賀大学は、平成15年10月に、それまでの佐賀大学と佐賀医科大学が統合して新「佐賀大学」が設置されました。その半年後の平成16年4月には、国立大学法人になりました。それから10年がたちました。

この10年間に、農学部の改組をはじめ、新しい組織やセンターが設置されました。10周年記念事業として美術館も設置されました。大学教育も大きく変化を遂げています。10年はあっという間です。今、記録を残しておかないと、大学の歩みがわからなくなるのではないかという思いから企画しました。他の大学では、60年史をまとめているところもありますが、統合10周年に焦点をあてたのは、この記念誌だけだと思います。その意味でも注目される取組だと思います。

平成25年の美術館の設置にあわせて、まず通史編のみの記念誌を刊行し、一部を修正してその年の卒業生と新入学生に配布しました。1年後の平成26年の9月に部局史編を加え、通史編とあわせて一冊にして刊行しました。学生や保護者の皆さんに、佐賀大学の歩みをぜひ知ってほしいと思います。

○どうして『佐賀大学の物語』なのですか。

統合10周年の記念誌でしたので、統合後の10年の歩みを中心にまとめることにしたのですが、それだけでは不

上野景三（うえのけいぞう）
統合10周年記念誌編集委員長
文化教育学部
教育学・教育心理学講座 教授

十分だと考えたからです。旧佐賀大学では『佐賀大学四十年史』(平成6年)がありましたが、それ以降の歴史はまとめられていません。旧佐賀医科大学では、10年おきに記念誌がまとめられています。各学部にも同窓会が中心となってまとめたものもありますが、きちんとまとめられたものは、まだ少ない状況です。したがって、現在の佐賀大学の姿に至る過程の全体像がわかるよう編集をしました。また大学史の研究も進み、旧制の佐賀高等学校、佐賀師範学校時代の資料も新たに発掘されていることから、大学の前史の部分を書き加えていくことになりました。

本来ならば、本格的な大学史がまとめられる必要があるのでしょうが、まだそこまでの準備や体制はできていません。大学史になると、佐賀大学や部局ごとの考え方や主張などをまとめていくことも必要になってきます。それを整理するには、時間も手間もかかります。

けれども、先送りにはできないだろうと判断し、統合10周年を契機として通史的なものをまとめることにしたわけです。『佐賀大学の物語』としたのは、読みやすく、ビジュアル的にも写真をふんだんに取り入れ、親しみやすくなることを願ってのことです。

○今回、編集して新たな発見はあったのでしょうか。

今回は、最初から資料の収集・保存、今後の活用につながるようにしたいと考えていましたので、全学部に資料が残っているかどうかの確認をしまし

統合10周年記念誌
『佐賀大学の物語』

医大の開学と古川学長(佐賀新聞社提供)

田んぼの中の佐賀医科大学

鍋島キャンパス

平成25年

佐賀城内・本丸時代の佐賀県師範学校（佐賀県立博物館所蔵）

た。すると、戦前期の資料や戦後初期の学籍関係の資料、またいくつもの写真等が残っていました。部局のロッカーにしまわれたままになっていた資料がいくつも発見されたのです。重要かつ貴重な発見でした。編集委員や執筆委員の努力によって集められた資料もあります。関係者にも資料提供を呼びかけたところ、同窓会や卒業生からの写真や資料の提供もありました。ありがたいことでした。

読んでいただくとわかりますが、歴代の学長の写真だけでなく、旧制時代の校長の写真もあります。部局やセンターの歩みは、初めてまとめられたものもあります。資料として組織の変遷や主要人事、参考文献も掲載されています。『四十年史』にはなかったものもあり、充実した内容となっています。

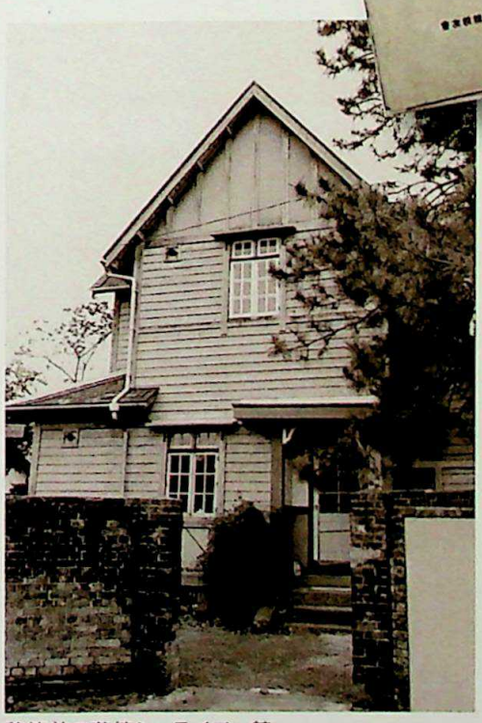
一方では、残っているだろうと思われていた会議の資料がなかったりして、困ったこともありました。大学に限らないかもしれませんが、歴史的な資料は、意図的に残していこうとしないかぎり、散逸は避けられないのです。したがって、大学の中に意図的に資料を収集したり、保管したりするセクションが必要ではないかと思います。

旧制佐高水泳部

軍事教練の一コマ

「校友会雑誌」と「佐大文学」

『佐賀大学新聞』第100号（昭和41年3月15日付）



移築前の菊楠シュライバー館

移築された菊楠シュライバー館

正門前の再整備

旧制佐賀高等学校正門

○これから『佐賀大学の物語』をどう利用していくのですか。

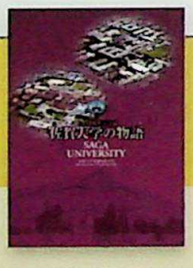
まずは、在学生や保護者の皆さんだけでなく、卒業生や地域の多くの方々に読んでいただきたいと思います。それから、本学に新しく採用される教職員の方には必ず読んでいただき、佐賀大学の歩みを知ってほしいですね。

大学は、国立大学の時代から大学間統合を経て、国立大学法人の時代に入りました。今後、少子(高齢)化の中で、大学の統廃合も現実味を帯びてきています。しかし他方では、地方創生の中で若者定着をはかる装置として地方大学の役割も重視されるようになってきています。大きな転換期の中に大学はあるといえます。佐賀大学も例外ではありません。

しかし、大学は時代の中で翻弄されるばかりではなく、方向性をたえず見極めていかなければなりません。大学としての使命を果たし、社会の中で求められる役割を感じながら運営することが求められているわけです。そのときに、佐賀大学のこれまでの歩みを振り返りながら、未来を展望することが求められています。歴史をみつめることは、未来を探すことです。佐賀大学の未来を創るために、本書を利用していただきたいと願っています。

統合10周年記念式典

美術館の夕景



『佐賀大学の物語』はパソコンで閲覧できます。

パソコンのブラウザで下記アドレスにアクセス

http://www.saga-u.ac.jp/koho/monogatari.pdf

ドクターヘリ就航記念式典

海洋エネルギー研究センター伊万里サテライト

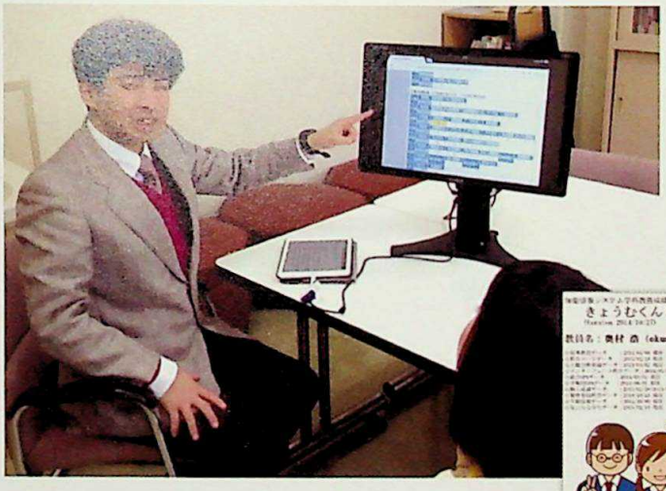
自作のソフトウェアで学生の学習状況を「見える化」

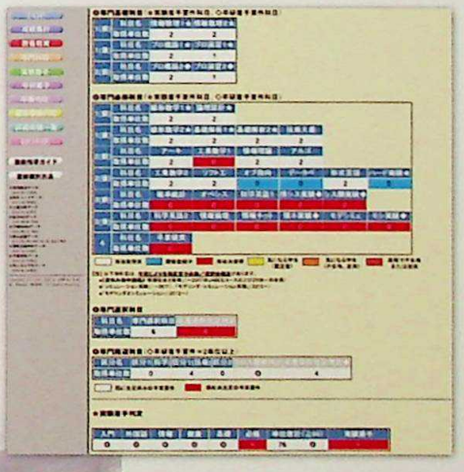
佐賀大学では、学生が安心して学習や研究に取り組めるよう、チューター制度といういわば「担任制」を取り入れており、チューター面談などの際には、「ラーニングポートフォリオ」や「Live Campus」といったさまざまなシステムを駆使して、学生の学習支援を行っています。

皆さんもご経験があろうかと思いますが、人間は便利な環境にはすぐ慣れてしまい、もっと便利に、もっとわかりやすく、という「欲」が出てくるものです。私も学生の履修指導を進めていくうちに、現在のシステムに「こんな機能があれば」「こんなインターフェースであれば」という「欲」がだんだんと出てきました。そこで私は、「学生の教育や履修指導に関することは、現場の教員がいちばん理解しているはず」ということで、新システム開発に着手しました。私が過去に同じようなツール作成の経験があったことや、当専攻にこの道のエキスパートが多数在籍している環境にも恵まれ、平成24年2月に「きょうむ君」という新しい履修指導支援システムを開発、運用開始することができました。

このシステムは、インターネット環境があれば、パソコン、スマートフォン、タブレット端末のいずれでも利用可能で、学生の学習状況が把握しやすい直感的なインターフェースを備えています。これまでの単位取得状況表示、学期毎変化のグラフ化、履修登録中の科目一覧表示、当学科の進級に関する各種判定（実験着手、卒業研究着手、卒業）、気になる学生（状況が芳しくない学生や特別なケアを要する学生）の情報共有などを行うことができ、理工学部知能情報システム学科の担当教員の履修指導効率の向上や、問題を抱えた学生の早期発見・早期対処に大きな成果をあげています。

残念ながら、まだ当学科のみに対応しているプロトタイプシステムですが、近い将来には、全学的に利用できるシステムに育てて行ければ…と願っています。





奥村　浩（おくむら　ひろし）
工学系研究科知能情報システム専攻
教授

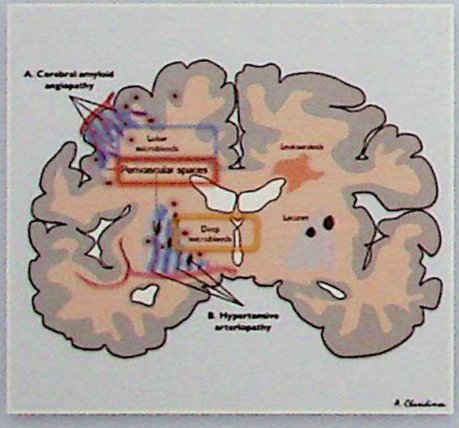
脳のアンチエイジングを探る!
“The Kashima Scan Study”

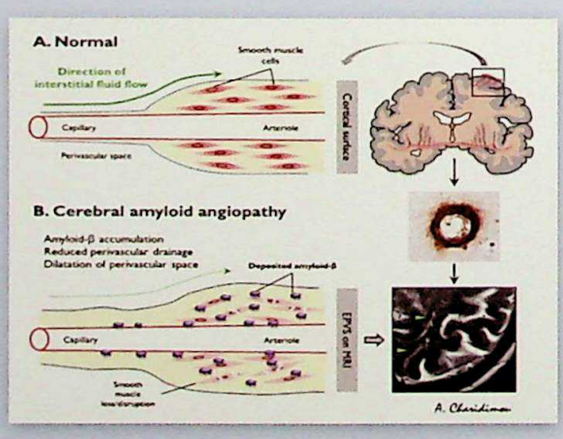
21世紀は「脳の時代」と言われています。確かに西暦2000年を境に脳の病気に対する薬が数多く登場しました。代表的には、脳梗塞を起こした血の塊を溶かす血栓溶解薬、認知症の進行予防薬があげられます。脳に携わる医師としても、躍進する領域と期待感を持っておりますが、反面、それら薬物の限界や副作用を経験するたびに、あらためて予防の重要性を痛感させられます。

私たち医学部神経内科は、鹿島市の祐愛会織田病院の脳ドック受診者のご協力のもと、加齢(エイジング)と脳の変化の関係を理解し、脳の予防医学への貢献を目標とした研究を平成17年から継続しています。約2000名のデータに基づき、脳MRI(エムアールアイ)上の、従来は「お年のせいですよ」と医師から説明されていた病変の意義について検証し、種々の英文論文を発信してきました。第1作目の論文は、年と共に増える、5mm程の微小出血が、認知機能を低下させうるというもので、米国脳卒中学会平成20年世界脳卒中デーの採択論文として紹介されました。第3作目は日本脳ドック学会会長賞をいただきました。授賞式の際に「世界の研究者に覚えてもらうために、一貫した研究名をつけましょう」と助言を受け、鹿島市から発信する“The Kashima Scan Study”と命名しました。平成26年には、第6作目として、脳内の小さな溝の分布を見ることで、脳への高血圧の影響やアルツハイマー病関連蛋白の血管付着を予想できる可能性を提言しました。この論文は神経医学雑誌として有名な米国神経学会誌 Neurologyに掲載されました。

研究協力機関(祐愛会 織田病院:鹿島市)の健康管理センターのスタッフの皆さん

このように、県民の皆様のご協力のもとに脳のアンチエイジングの研究に関する新知見を世界に発信できていることは、同じ佐賀県民として大変感慨深いものがあります。これからも、“The Kashima Scan Study”を突き進めていきたいと教室一同で頑張ってまいります。





薬師寺 祐介(やくしじ ゆうすけ)
医学部内科学講座神経内科部門
講師

留学生と日本人学生の架け橋に
グローバルリーダーズ

ランゲージラウンジ

Hello, everyone!! 私たちグローバルリーダーズは、多様な文化・価値観を尊重しながら学習・研究・知的交流ができるキャンパスとはどのような空間かを学生の立場で考え、異文化交流プログラムやイベントの企画・運営を行っています。私たちの主な活動目的は、国籍を越えたネットワーク作りのサポートをすることです。国際交流活動に興味がある学生や、留学経験のある学生で構成されており、現在16名の選抜されたメンバーを主軸に活動しています。

グローバルリーダーズが力を入れている活動のひとつに、「ランゲージラウンジ」という取組があります。平日のお昼休みに約1時間を使って外国語（英語・中国語・韓国語・日本語）に触れることで、異文化理解を深め、佐賀大学の日本人学生と留学生の壁を壊すことを目標としています。友人作りや留学情報交換の場ともなるので、皆さん気軽に遊びに来てください！また、年に一度のオープンキャンパスでは高校生に向けて「お試しランゲージラウンジ」の開催や、留学制度説明、留学経験者の発表を行っています。その他にも新入留学生の歓迎会・交流会などを行い、佐賀大学内での国際交流の推進のためにさまざまな活動を展開しています。

2月中旬には、国際交流活動についての意見交換のため、東北大学で1泊2日の研修を実施しました。東北大学で活発に国際交流活動を行っている多くの学生との意見交換を通して、佐賀大学の国際交流における課題点・改善点を数多く見付ける事ができ、またメンバー同士の絆も一層深めることができました。

東北大学での研修の様子

オープンキャンパスでの
「お試しランゲージラウンジ」の様子

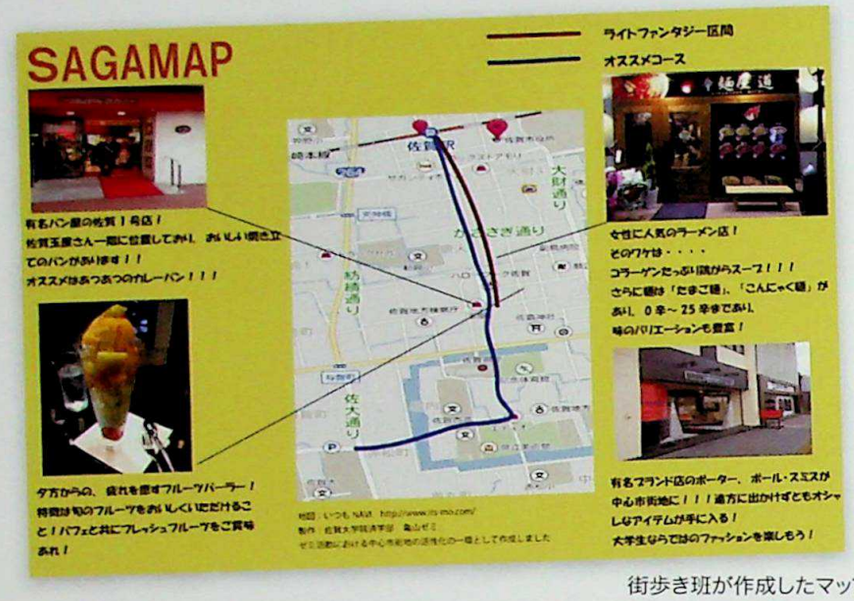
今後は、グローバルリーダーズの認知度向上のため、私たちの活動を積極的に広報していきたいと思っています。また、学内にとどまらず、地域に根付いた交流活動をほかの国際交流団体と協力しつつ実現していきたいです。これからも私達グローバルリーダーズは活動を続けていくので、国際交流に興味があるという方は、学生センター2階の国際交流室に是非一度足を運んでください！

グローバルリーダーズのメンバー

イキイキ佐大生

「サードプレイス」で街を元気に

経済学部 亀山ゼミナール



街歩き班が作成したマップ

古川 千晶（ふるかわ ちあき）
経済学部経済システム課程3年

スウェーデン料理をもとにした「ショットブッラールプレート」

亀山ゼミでは、「佐賀市中心市街地の活性化」をテーマに、街歩き班、多文化共生班、シアター班に分かれ活動しています。なかでも私たちシアター班は、米国の社会学者、レイ・オールデンバーグが提唱した「サードプレイス」に注目しています。「サードプレイス」とは、ファストプレイス（家）、セカンドプレイス（職場、学校）に続く「居心地のいい場所」のことで、西洋のパブやカフェが代表事例です。「サードプレイス」には、コミュニティや活気が存在するとされます。

留学生と食生活をテーマにしたイベント（多文化共生班）

私たちは、中心市街地を「サードプレイス」とする人が増えれば、コミュニティ形成を通じて、中心市街地の活性化に繋がるのではないかと考えました。

中心市街地にあるミニシアター、シアターシエマさんのご協力のもと、コミュニティ形成を目的としたランチトークイベントを開催しました。

イベント当日は、約20名の方にご参加いただきました。4テーブルに分かれ、各テーブルにゼミ生が付いてお話をしました。お料理の「ショットブッラールプレート」は、イベント前に上映された映画『100歳の華麗なる冒険』にちなみ、スウェーデン料理をもとに、シエマの方に考案いただきました。イベントは、前述の映画のタイトルに関連したトークで盛り上がりました。また印象に残った映画の話題では、内容に共感してうなずいたり、今度見てみよう！とメモを取ったりする方もいらっしゃいました。

イベント終了後にアンケートを行い、感想や人々がコミュニティに参加する際に考慮する点等を伺いました。集計結果を用いて、中心市街地におけるコミュニティ形成に寄与するための提案をしたいと考えています。

今回のイベントが、新たなコミュニティ形成の一助になったのではないかと思います。

ランチトークイベントの様子

佐賀大学オリジナル清酒「悠々知酔」

～愛情と情熱を込めてあなたに～

大田 潤（おおた じゅん）
農学部生命機能科学科3年

麹室での麹づくり

2年毎に酒蔵を変えながら製造し、今年で9年目を迎える佐賀大学オリジナル清酒「悠々知酔」。平成26年はみやき町にある天吹酒造で純米大吟醸酒を日本酒の伝統的な製法である生酛造りによって製造しましたが、平成27年は多久市にある東鶴酒造にお世話になり、特別純米酒「悠々知酔」を造ることとなりました。

指導教員である小林元太教授のもと、学生7人で12月頃から約2ヶ月間、味のコンセプトを考え仕込んでいき、櫂入れ、麹室での作業、酸度・日本酒度の分析、しぼり、出来上がったお酒のビン詰め、ラベル貼りまでの全工程を杜氏である野中保斉社長をはじめ、酒蔵の方々にご指導していただきながら造っていきました。

今年は、「お米の味をいかした、飲みやすく食中酒としても楽しむことができる、ぬる燗で飲んでもおいしいお酒」をコンセプトとして、2本のタンクにそれぞれ麹歩合や最終的なアルコール度数の高さに違いをつけるという実験的な要素も織り混ぜながら楽しく作業を行っていきました。また今回は、お酒の種類を「生酒」、「火入れ」だけでなく、醪（もろみ）を絞った時に残る白い沈殿物（おり）を除去せずビン詰めする「おりがらみ生酒」にも新しく挑戦してみました。

今までは、主に応用微生物研究室の学生で取り組んでいた企画でしたが、今回は他研究室から熱望して参加した学生もいたほど、お酒好きで、製造への関心が高い人が多く、仕込みの段階では毎日熱心に取り組みました。

実際に出来上がったものを利き酒してみると、分析した数値から予想される味とは異なっていた事に驚き、「座学」だけでなく実際に現場に出て作業を行う「実学」の大切さを実感することができました。

一日でも早く、私たちが我が子のように愛情込め、手間暇かけて完成した今年の悠々知酔が皆さんのお手元に届くことを願っています。

びん詰め

試飲会にて（野中杜氏と）

今回お世話になった東鶴酒蔵

地(知)の拠点

地(知)の拠点整備事業

佐賀大学と西九州大学は、佐賀県全域をキャンパスと位置付け、学生・教職員による実践的な教育研究を通して、地(佐賀県域)と知(教育研究)のアクティベーションを進めることで、佐賀の地における知の拠点としての機能強化を実現するため、両大学の教育・研究シーズを集約し、佐賀県域が抱える地域課題としての中心市街地・離島・山間地域の活性化、地域産業の振興とコミュニティの再生、地域医療・保健・福祉の向上、子どもの教育支援、高齢者の健康改善および地域環境の保全等の解決に向けた12の教育研究プロジェクトを推進しています。(文部科学省平成25年度採択事業)

このプロジェクトでの佐賀大学の取組を紹介します。

有明海学で学ぶ干潟の生態系と地域環境の保全

「有明海学Ⅱ」における干潟の生物調査

私は、インターフェース科目「有明海学」を受講しています。「有明海学」は、佐賀、長崎、福岡、熊本の4県に面している有明海について、詳しく調べたり、身近に感じたりすることで、その生物多様性や環境の大切さを学ぶ講義です。

「有明海学」は、主に内部活動、外部活動、課外活動と3つに分かれており、内部活動では、有明海について座学の授業で学びます。例えば、有明海の干潟には、どのような生物が生息しているのか、その生物は有明海の生物多様性においてどのような役割を果たし、関わっているのかなどを、写真や統計データを通して学んでいます。

「有明海学Ⅱ」における野鳥観察の様子

次に、外部活動では、実際に有明海の干潟に行って、前述の内部活動で学んだことを活かし、野鳥観察や干潟に生息する生物の観察・調査をしています。なかでも、一番興味を惹かれたのは、有明海の泥を採取して、その中に含まれているクロロフィルの量を調べる実験でした。一見すると、底に沈んでいる泥と表面に浮かんでいる泥の違いはあまりないのですが、顕微鏡などの特殊な機材を使ってそれらの泥をミクロの世界で見ると、大きな違いがみられとても驚きました。

最後に課外活動とは、佐賀県内で行われる有明海に関するイベントに自主的に参加する活動です。私は平成26年10月に佐賀新聞社が主催、本学が協力して開催した「AQUA SOCIAL FES.(以下AQUA)」というイベントに参加しました。AQUAは自然保護や保全を目的とした地域社会貢献イベントで、トヨタ自動車の協賛で各県で異なるテーマを設けて開催されています。佐賀県では、有明海の漂着ゴミから環境保全を考えるというテーマで、佐賀市東与賀町の干潟よか公園で行われました。イベントには、本学学生や教職員、地域住民の方々など総勢100名程が参加し、干潟の生物観察や清掃活動を約2時間行いました。清掃活動で驚いたのは、ビンやカンなどのゴミの量はもちろんのこと、まだ使えそうな自分の体よりも大きいベンチが捨てられていたことでした。この活動への参加は、環境保全のための啓蒙活動をしていきたいと考える良いきっかけになりました。

「AQUA SOCIAL FES.」開催風景

以上の3つの活動を通して、私の環境保全に対する考え方が180度変わりました。正直なところ、自然にはそれほど興味がなかったのですが、自然環境の保護に関してもっと密接に関わっていきたいと感じるようになりました。これからも生活の中で、環境の大切さや自然からの恩恵を家族や友人などに広めたりすることで、学んだことを活かしていきたいです。

尾崎(おざき) 北斗(ほくと)
経済学部経済学科2年

浅田真央×住友生命

「YOUNG JAPAN ACTION」大賞受賞！

農業サークル ForS.

稗田 浩世（ひえだ ひろよ）
ForS.代表
農学部生物環境科学科2年

ForS.メンバー

私たちForS.（フォーエス）は、佐賀大学の学生からなる農業サークルです。「学生パワーで農楽しようぜ！～in佐賀～」というスローガンのもと、農業の楽しさをみんなで味わいたい、農業を通して佐賀を元気にしたい、という思いで、現在メンバー24名で活動を行っています。

このたび、ForS.は住友生命主催の「YOUNG JAPAN ACTION」というプロジェクトに応募させていただいたところ、見事、大賞を受賞することができました。このプロジェクトは、日本の若者が力を発揮できる環境の創出を行い、若者の豊かな感性を活かし社会的課題を解決することを目的として開催されました。選考会には、プロジェクトリーダーでもあるフィギュアスケート選手の浅田真央さんが参加されていたこともあり、受賞したという知らせを聞いたときは、とても驚きました。まさか私たちが、という思いも勿論あったのですが、私たちの活動に興味をもっていただき、大賞に選んでいただいたことが何よりも光栄なことであり、今後の活動をより一層頑張っていこうと思えました。

ForS.は週末、佐賀市富士町にあるForS.の畑で、活動を行っております。元々、そこは耕作放棄地で、もう一度そこで農作物を育てるべく、開墾を行いました。私たちが、富士町の畑で農作業を行ったり、イベントができるのは、地域の方々のご支援ご協力があったからだと改めて感じております。逆に、私たちが地域の方々に恩を十分にお返しできていないので、今後は活動を通して、恩をしっかりとお返ししていきたいと思っております。

浅田さんも農作業に参加

活動風景

今回、このような輝かしい賞を受賞するにあたって、私たちの活動を見つめ直すきっかけにもなりました。また、私たちの活動をより多くの人に知っていただくきっかけになるとも思うので、私たちの活動を通して、農業の楽しさというものをみんなに発信していけたらいいなと思います。また、学生を巻き込んだイベントも行おうと思っているので、ちょっとでも興味をお持ちでしたら、気軽に参加していただきたいです。一緒に、サークル活動を行いたい方も歓迎いたします。是非、みんなで農楽しよう！！

「佐賀大学美術館・正門整備」が『佐賀市景観賞』を受賞！

表彰式での宮﨑美術館長

平成27年1月22日、佐賀大学美術館内のスタジオにおいて、「第18回佐賀市景観賞」の表彰式が行われ、「佐賀大学美術館・正門整備」を含む3件に表彰状が授与されました。

佐賀市景観賞は、佐賀市内にある建築物や緑など目に見えるものだけに限らず、そのものが醸し出す雰囲気など、総合的に景観の形成に貢献しているものに贈られる賞であり、佐賀市民の景観やまちづくりに対する意識の向上を願い、これからの佐賀市の景観に対するひとつの道しるべになるように、また市民のまちづくりへの取組の一端を広く紹介できるようにと、平成9年度から実施されているものです。

佐賀大学美術館前に設置された佐賀市景観賞の銘板

今回の受賞で本作品が評価されたポイントとしては、ガラスを多用することで開放感にあふれ、軒の水平ラインが外に向かって伸びやかな広がりをつくりだしている点や、正門周辺に塀や門柱などを設置せず、新たに時計塔やバス停、緑地などを設けることにより近隣との隔たりをなくし、地域に開かれた大学を象徴している点、さらに大学としての風格を保ちつつキャンパスイメージを一新させ、道路拡幅によって変容する周辺地域と融合を図った点などです。

表彰式では、赤司邦昭佐賀市副市長より、宮﨑耕治佐賀大学美術館長らに表彰状が手渡されました。表彰式にあわせて行われたパネルディスカッションでは、「みんなで考える景観まちづくり～佐賀市景観賞の事例から～」をテーマとして活発な意見交換が行われ、来場した多くの市民がパネラーである宮﨑館長らの発言に熱心に耳を傾けました。

また、表彰式が開催された1月22日から29日まで、佐賀大学美術館においてこれまでの景観賞受賞作品及び景観重要建造物等のパネルを展示した「佐賀市景観展」が開催されました。

地域と共に未来に向けて発展し続ける佐賀大学は、今回の佐賀市景観賞の受賞を励みとして、今後も美しい景観形成によるまちづくりにつとめていきたいと考えています。

受賞した佐賀大学美術館・正門周辺

弓道部（鍋島キャンパス）

主　将
松尾　彰信（まつお　あきのぶ）
医学部医学科3年

こんにちは、佐賀大学医学部弓道部です。

私たち弓道部には男子33人、女子63人の計96人の部員がおり、鍋島キャンパスの部活の中でも最大級の規模で活動しています。今は、平成27年5月の九州・山口医科学生体育大会(九山)と、平成27年8月の西日本医科学生体育大会(西医体)にむけて、先輩方から受け継いでいる「大射貫鉄石」という伝統のもと、日々練習に取り組んでいます。

部員の多くは大学から弓道を始めていますが、昨年は九山では男女団体優勝、西医体では十数年ぶりの男子団体優勝を成し遂げることができ、全日本医科学生体育大会(全医体)への出場を果たしました。全医体では惜しくも準優勝に終わり、今年はその雪辱を果たすべく、全医体優勝を目標としています。

また、他大学との交流戦や、自分たちで企画した球技大会や秋旅行などのイベントも行っていて、部員同士の仲がとてもよく、和気藹々とした部活です。

これからも大会に向けてチーム一丸となって練習に励んでいきたいと思いますので、応援よろしくお願いします。

アイスホッケー部（本庄キャンパス）

部　長
田中　利功（たなか　としかつ）
理工学部知能情報システム学科3年

こんにちは。佐賀大学アイスホッケー部です！現在プレイヤー8名、マネージャー6名で活動しており、九州学生アイスホッケーリーグの2部に加盟しています。毎年11月にある学生リーグで1部に昇格することを目標にし、部員一丸となり週に2回練習に励んでいます。

新チームになり既に公式戦で2勝しており、とても勢いがあります！アイスホッケーは日本ではマイナーなスポーツなのが現状で、今いる部員も全員初心者です。しかし、部員の中には佐賀県代表の国体選手として試合に出場した人もいます！スピード感と迫力のすごさはどのスポーツにも負けず、一目見れば誰もが虜になるはずです！

佐賀にアイススケートリンクがなく、練習や試合はほとんどが福岡で行われているため移動時間がかかるなど大変なこともありますが、それでもみんなが部活を続けられるのは、勝利したときの喜びの大きさ、何よりもアイスホッケーが好きだという気持ちが強いからだと思います。

是非一度、活動見学に来てみてください！いつでもお待ちしております！連絡等はHP、Twitter、Facebookにて受け付けております。日々の活動もブログに更新しているので是非ご覧ください！

HP……http://sports.geocities.jp/saga.univ.ihc.htm
Twitter…http://mobile.twitter.com/saga_univ_IHC
ブログ……http://s.ameblo.jp/saga-ihc/

特別純米

悠々知酔

ゆうゆうちすい

佐賀大学の酒

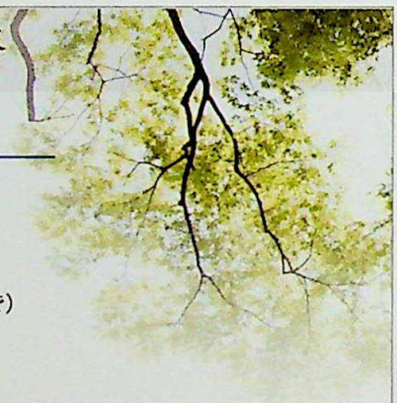
税込1,400円

特別純米「悠々知酔」は佐賀県内の酒販店または佐賀大学生協でお買い求めいただけます。ぜひご賞味ください。

佐賀大学生協　tel 0952-25-4450

佐賀大学公認マスコットキャラクター／カッチーくん

平成27年度 学年暦



■前学期

- 4月1日 ● 前学期始
- 4月7日 ● 入学式
- 4月8日 ● 前学期開講
- 7月30日 ● 前学期定期試験(8月5日まで)
- 8月7日 ● 夏季休業(9月30日まで)
- 9月24日 ● 学位記授与式(9月期)
- 9月30日 ● 前学期終

■後学期

- 10月1日 ● 開学記念日・後学期始
- 10月5日 ● 大学院入学式(10月期)
- 12月26日 ● 冬季休業(1月6日まで)
- 2月8日 ● 後学期定期試験(2月15日まで)
- 3月23日 ● 学位記授与式(3月期)
- 3月31日 ● 後学期終

編集後記

佐賀大学は、法人化とほぼ同時期に医科大学との統合が行われ、初めての経験が多く、激動の10年間でした。この10年は、新たな「佐大」の姿とはどうあるべきか、大げさに言えば、アイデンティティ（存在意義）を探し求めていた時期と言えます。本号で特集した「『佐賀大学の物語』刊行」は、10年が経ち、だいぶ「佐大らしさ」が見え出した今、これまでの両大学の歴史をまとめておく必要性を感じ、進められた事業です。「自分を知る」には、まずその歴史を知るべきということで、新しい「佐大の姿」を思い描くには、これまでの約70年の長い歴史の上に立ち、考えてみるということが必要です。また統合10周年記念事業の、美術館建設と正門整備が「佐賀市景観賞」を受賞したという記事も掲載できました。「地域の交流の場として開かれた大学」というコンセプトで設計・整備された美術館と正門こそ、過去の実績を土台にした、佐大の新しい姿の明確なシンボルです。

関連して、前号から紹介している「地（知）の拠点整備事業」も、「佐賀の大学」としての存在意義を十分に発揮する事業で、今後このような活動の記事が増えてくるのではないかと予想しています。

様々な取組をしても、法人化前はほとんど広報することはありませんでしたが、今は積極的に広報し、アピールする時代になったことも、この10年の大きな変化です。本誌の使命は、ステークホルダーの皆様に大学の活動を知っていただき、応援してもらうことです。これからも皆様から応援していただける大学であり続けるために、いい記事をどんどんお届けいたします。　（広報室長　早瀬　博範）

佐賀大学メールマガジン登録受付中!!

読んで役立つ情報満載！！

登録は→ http://www.saga-u.ac.jp/mailma/

または 佐賀大学　メルマガ　検索

National Institution for Academic Degrees and University Evaluation
NIAD-UE
UNIVERSITY ACCREDITED
Mar.2010

【表紙画制作者】文化教育学部教科教育 教授 栗山 裕至

作品名「 そこで生きていくこと 」

（第59回美術・工芸課程卒業制作展 出品作）

吉村 美歩（よしむら みほ）（文化教育学部美術・工芸課程4年 西洋画専攻）

（部分）

（部分）

【作者プロフィール】

1992年　熊本県生まれ

2011年　佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程入学

【作者コメント】

自然と光の融合によって生じる現象の美しさに惹かれています。それらは、私たちにエネルギーを与えてくれます。

自然の表情をかりて、人々にたくさんのエネルギーを与えられればと思い制作をしています。

本学の情報をスマートフォンで見ることができます。簡単アクセスはQRコードをご利用下さい。

スマートフォン用 URL:http://www.saga-u.ac.jp

佐賀大学広報誌かちがらす　第33号

■編集・発行／佐賀大学広報室　■〒840-8502　佐賀市本庄町1番地　TEL:0952（28）8153　FAX:0952（28）8921

■発行日／2015年3月　■ホームページ／http://www.saga-u.ac.jp　■E-mail／sagakoho@mail.admin.saga-u.ac.jp

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています。